

諸達掛合

明治三年一月
全三月

諸達掛合

明治三年一月・全三月

177

諸達掛合

明治三年正月

五十年史料

177

明治三年四月

諸達掛合

昨廿一日南校の雇教師アレキサニシテ並大に儀
下谷池ノ隅ハ石成水多ク生狐を其前附座ト去
并天社別當らち以テ家おまゐり市中ハ歸之條ニ
爰撰ミテ之ヲ級中マシメ直ニ告ル所ヨリ成ケル因
由及師費池ニ入リイリ申カ太富ニ云フ一ツ聖者
九百古以テ像出張ハ困リ此ノ故ニ宛發禁割ニ
多ク来ル心付テ了スヤ達至重標附座トシとの嚴
密ナ制一掃教方アリテ而モ出入ル人々ニ至事
莫クシテ已陽合身向後モ不務ク決断ナラバハ
飯盛殿より甘玉リ取内校ナリヤ出立妙匠少也
此金片也

源官

四中

附記

向後以器之象波先字多々之なり之由大
波既以之而用は節も西押並に申出申

高春秋多き如く市官負之四角又も市販等々
〜〜市販等々更にも同今多々なるを於高季
と上家生既り市法官負之連つ向に市販等
深に程身とてりり候りた代科法なく下
五中一仕とて市付れむ酒をふり方一の所
々と波儀ふり申すは此法方心法に進り也
四月四日

大学

五簿

五校

五簿

の甲

運上所

四

東京運之所

役丁

田村新助

多者此夜無語其自其局下至送其自治
 之羅之汝之代以所斗之乃安委細牧之修歸
 之之之之之之之之之之之之之之之之之之
 之之之之之之之之之之之之之之之之之之

名星上祈少願
誠空百助者方
回抄未二付附
添

斗山

大学東校

山中

東京運上所

東京運上所

役丁

田村新之助

多く若水祖之世語り舟を少局に送り送り
右海運中入向の條を移る高局より此拂り
り右仕事一うねり四斗道より用古舟を城
よりなる舟此匠で進め也

西月音

右通書

右紙面を板防ふ紙は金紙と云紙
費入用書と進下中紙也

月日

東校

東京運上所

山中

當時在系
勅任官以よし人名由後七日中く由取調り
出うきしり也

五月廿

初官

大学

中

其藩桂門南軍儀山用より其旨より急出府
うは附探去上月より相違なき事未タり
も他はし何事とも事有き事其及同分
也

五月九日

大学東校

静園

公用人中

光

一、同舍書

光孝諸君在生以上

通

静園集

荻沼新二

大谷助を師方去官職務被免はりて高月分

官禄中賜り名被

所出り自ら名を安縁諸君方より此後生校に被

お寄るなり又高月分より被りて小月分を

よりしは皆所被りて方なり也

小月分

大学主簿

東校

主簿

少

下九

本文に海子に波生高後より少波
生る改注の云々ありいれ也

高橋如中必集より二西氣よりなり余
より云々蓋し其より云云同注より高
人死仕居る其より其証書に高如仕
海に何れ日や同者より云々其証書に
元敬より云云如中より云々其証書に
余より云云如中より云々其証書に
石破より云云如中より云々其証書に
云々日教より云云如中より云々其証書に
所表より云云如中より云々其証書に
より如中より云々其証書に

館林藩

杉本活平

乙卯九月

生乳代金に依りて相替りては名は後十日
十字高夜に出る多しと採りて一皮改め申
進也

四月十日

大学東校

主簿

牛馬高社

田口少令史皮

富藩

桂川南集

考し者多し用多しと申出付う方防名を十月
中清達少中へ申す急静長を中や達多りぬ
と申節病氣を言ひて毛布のひきと申す方へ振
居へる物付の形跡を依りて経を改めるといふ
うへに破の方を起して申すところを又作
九方ありて達少申す急静長を中や達多りぬ
金状の方へ出付方社へ依りてを金に依りて
何年物付の形跡を依りてと

静長藩

角人

乙酉十月

松山秀石廊

小田又飛

溪石軒

大學東坡

師汲所

舌演

[illegible]

來敬編

少いとの所用に依り案し後十言已り別體
 後着用も後出の二つよりみゆ也

乙卯丁巳

大學東校

大学東校

東京運上所

市中

運上所

役丁

田村新太郎

多しとの品有る物長き自其校より運上治候
おれが家道の映る外は名人多し候に
も口人母付く又孫に成り候名中出候所
多しとてその名を「おれが家」に
多しとて此所に入付也

四月十日

田村新之助源高俊に於て治藤中河
時久藤に之を戒めざるを責めんと
也

乙卯十月

大學東校

東京通志

四

此間中の建ち出し校掌ヲ改メ學掌ト可稱
以後以後ノ改メハ此也

正月十二

大學

東校

13

大学東校

以法金中額

田金少金史

以紙以字意其物生乳之像身内十字身
十字身步以う解名ふおはたき今自戒之様
表所用之像方之出張中一は石陽系一と
早くと波出以と名は限宜き面外至一と
久者法以と法も意致し知る也

乙月十日

以十字字う其以に視換とて法係大博士
以城以名今と内少法金とて致大方面東門一其
也

乙月十日

當校大字字生之宅田名高門内傍地於中
引紙繪圖を以て示す此中其宅の
田之邊の所はよくはあり也

六月十日

大字東校

東京府

山田

當校大字校大字

山田大字大字

右田内方より歸りて六月十日
引紙繪圖を以て示す此中其宅の
田之邊の所はよくはあり也

六月十日

大字東校

大字

山田

引紙を建白するに
後部初月準蔵より引紙に通う所出たるを校
に是止在職庶士にふりて引紙初月準蔵より
改る所出たるを校に是止在職庶士にふりて
也

乙月十九日

大学東校

大學

中

一 惣門内若所を出入し水通うお紙の傷何
方一引紙より一引紙法より係先より事
一 門内向う付言するはた水通うお紙の傷何
に紙の付の地通行ある事
一 水通うに要するより紙の付の地通行ある事
一 水通うに要するより紙の付の地通行ある事

一 惣門内若所を出入し水通うお紙の傷何
方一引紙より一引紙法より係先より事
一 門内向う付言するはた水通うお紙の傷何
に紙の付の地通行ある事
一 水通うに要するより紙の付の地通行ある事
一 水通うに要するより紙の付の地通行ある事

東京大学

獨りて醫師之職に任ぜられたる者其の甘言
甘言の内身は附く右所該院に於て又
官費を人より出資するに依りて
り限るが故に其の多き言は口用は使はれ
通る言はれしに 口用言はるる言は使はれ及
り也

乙月十九日

外務省

大学東校

馬中

獨りて醫師之職に任ぜられたる者其の甘言
甘言の内身は附く右所該院に於て又
官費を人より出資するに依りて
り限るが故に其の多き言は口用は使はれ
通る言はれしに 口用言はるる言は使はれ及
り也

乙月十九日

東校

外務省

馬中

今日別當公が親学主校に於て其の振興を遂
ぐりて其の長校たるに由りて其の子弟を其の
所に出仕せしむる事其の子弟の進歩に由りて
其の子弟の進歩に由りて其の子弟の進歩に由りて

但し別當公の子弟は其の子弟の進歩に由りて
其の子弟の進歩に由りて其の子弟の進歩に由りて
其の子弟の進歩に由りて其の子弟の進歩に由りて

四月廿日

東校

主簿

大學

主簿

記

常夜校に實測日本地圖を郭に施す事
其の子弟の進歩に由りて其の子弟の進歩に由りて
其の子弟の進歩に由りて其の子弟の進歩に由りて

乙月

大學南校

局

東 京 大 学

大に常事ありて多し其の多しを以て而して少しと
いふは校の多しなり一なりは北匠乃各減分なり也

五月廿日

東 校

互解

十南校

互解

一

長谷川少助教

源金少助教

石黒昭々郎

土岐北少察長

大降謙二

長井直安

戸山隆軍

過 銅

ちく者を通り

所用に儀多し其の多しを以て而して少しと
いふは校の多しなり一なりは北匠乃各減分なり也

五月廿日

東 校

醫師解剖方視臨取罪人其月二日屍を其處に
多し其處を其處を其處を其處を其處を其處を
其處に其處を其處を其處を其處を其處を其處を
其處に其處を其處を其處を其處を其處を其處を
其處に其處を其處を其處を其處を其處を其處を
其處に其處を其處を其處を其處を其處を其處を

四月廿日

大学東校

東京府

昌平

右
礼

小千の自書示之者多し其重罪者
牢死せしむ其處を其處を其處を其處を其處を
其處に其處を其處を其處を其處を其處を其處を
其處に其處を其處を其處を其處を其處を其處を

四月廿日

東京府

東京大学

榎村貞軒

内田抱一

梅戸吉福

海康後主

芝三也

田村琢然

山本玄卿

隠居後主

管地通作

建部今石

名各通思
清同之縁を宗山言己別澄後主宗山白校

出段うきしり也

五月廿日

大学東校

名泉思

東京大学

福乙醫師雇入に際し、後、明治廿二年、
出省に就き、アス、コレ、渡通達、
あり、入也

四月廿二日

ある、明治廿二年、
あり、入也

大学東校

明治

外務省

明治廿二年、其、校、
席、あり、
中、あり、
也

四月廿二日

大学

簿

東校

簿

明治

明治廿二年、
明治廿二年、

大由故少と第十時多字より係是又中
達一うきなり也

東大

大子教古名職席なりは有任を任階に依
て由命を後れんお定りる如論に事毎月今
も後れり此席に次りたる事とも正しくなり
り係此法うは心なり中
方し通更に中達り也

五月

大子

教官中

牛肉は儀身山裁合く流波ふ知此皆得長之代
金而用りまふ百分の内而使成金を世同く南
くま中より生用又たかりは中一ふかいはく一ふ
者も高夜出入る者より牛肉丈九分を御所より出
りたる方々を自方々へ取匠のありけりあふくふ
出来やういへる者出入る者へ賣くうのむにたりを
ふか通る御使成金の事と一ふかゆい一月は後にお
ゆい損失云々いふ山匠及の事は点れは許候と云
の較るべしなり也

よりりかこり

ふか夜

中林 時し助

牛馬場仕合所

田舎通西渡

右要る

所用は儀身山裁合く流波ふ知此皆得長之代
出既りたりなり也

五月廿三日

大学出校

川瀬泰助

田口半蔵

山崎玄洋

八杉作道

月島吟了郎

乙卯年

大學東坡

大藏省

官給海軍金に減額す十月より當年九月末迄
年入費に属し北洋府十二月刻来ん十月より未
來九月末迄同年入費に属し北洋府閏月より十
二月刻之事

方々通牒定此方々廻達を以て可也

正月廿二日

大藏省

牛上陣安後

福島藩

三浦信卿

西川卷

松本藩

下條通基

常省因江者而等と申す是は元紙紙為る者
由用匠師や自ら其方治診察する全體匠業後
より上も左難くあるを出入りする方より其方
けりも其方より其方けり其方其方其方其方
其方其方其方其方其方其方其方其方其方

校より毎方出候より其方其方其方其方其方
及の城あり也

十月廿三日

外郎省

大子東校

三年

別紙一通田を及の城を及の城を及の城を
の校より其方其方其方其方其方其方其方
其方其方其方其方其方其方其方其方其方

乙月廿日

刑部省

大子東校

二月廿五日

南校

馬校

休

靜園集卷之五

靜玉清

桂川市策

多し若し用ひ俄にあらはれ
 所を夜に出る仕合に急
 便をいそぐ事なかりし
 所あるまじき世の中
 いかゞ出るといふ事
 申すべし

辛酉月廿五日

神宮藩

公用人

松山安太郎

山田又次郎

美田頼彦

一コムカテール

まじ

一大スポイト

但コム製より其流製より

うめく

一ポクトマーテル

まじ

多し市役よりより極高役迄因るより市役
より高角よりよりよりよりよりよりよりより
より被りよりよりよりよりよりより

乙月廿三日

市役

東校

市役

東
大
学
蔵
書

由
此
而
知
其
不
能
以
其
所
謂
之
道
也

乙酉廿五日

東
校

南
校

乙酉

此
一
書
多
有
其
所
謂
之
道
也
乙酉廿五日

刑部省清見武臣師

乙酉
信
卿

此
一
書
多
有
其
所
謂
之
道
也
乙酉廿五日

乙酉

主
簿

乙酉廿五日

大
學

乙酉

乙酉

左所用も儀らうといふ所廿八日、乙卯別禮被
着用と爲長く歩行のうらうら也

乙卯年

大學東校

廿七日

是近東京府安房波戸郡缺并之佃島人等
陽海子品門海路之由古高島有之語其台
地及山通障戸也

五月廿日

刑部省

乃學中下文句の法

別紙に通り、本邦省も、裁合らるゝる所を
以て、こゝに直居也

乙卯廿七日

別紙の五

四職中より初め及第職令いふ省の用番師三
浦信々下條通事と人々を叙因缺司を立既
此の因缺とて清くわくとも那利をも支て留まら
いんらむとある所斗より下條にないある又
乃の職令なり也

三月廿七日

別紙の省

大学

中

あきつる職令なり

別紙の五
いづく太政官にの校方の同うなすを撰る所
其の上省より被にふ事りて大學別紙の省
師を補に名を揚てし被にふ事りてふい
いある職令なりなり也

三月廿七日

外務省

大学

中

別紙の月省よりなり

大寺の通文

別紙写し通文を之部省より代官に達

すべし也

乙月廿七日

大学

东校

馬中

別紙の九

於大坂表陸軍操練所へ送る旨を軍事

二局宛取建するホートイの氣動被

仰付及び文中出せるホートイの儀帰期を

代人氣動の仕方の別紙にお書きを於又別紙

と通仰出せる所附添し通文所許客を成

別文ホートイの帰國の期はいつに成るか

時を早く早く帰國の期をいつに成るか

百是等次第を以てせしめられしに於て

別紙の別紙に於て也

乙月廿七日

兵部省

大学

馬中

あり、別紙の別紙に於て也

正月廿五日

兵部

辨官

清

付九

不為河之通來

但ふふふふふふふふふふ

三月廿日

大學五傳

五校

五
漢

子

桂川甫采

桂川甫采

四月廿八日

大學東校

辭世稿

省人

東京大学
蔵書
印

この安推以得業生内信地引出い有引成陰図也
お係山也一やける豆のり斗くくゆけり也

五月廿八日

大学東校

東京府

あき

所用之儀をるり百十字正横大画一画と八条
朝うらうと也

五月廿八日

辨官

大学東校

池在太子少監波の池今其日御用戸有之
 朝之居る處を留るは廣居の事也
 御所
 孤の同人之多太子少監の故を有るは是正稱
 之語を其乃余に其の校より宣中御の係り
 以てその所及の達也

乙卯廿九日

大學

五校

西

書交通大藏者より然るに其の所
所紙光澤近き

連月より出し、清昇帳と申す後、改々として月法拂
うる年物金三千二百兩に、額金をいふ事をも
入費平市へ診察料兼種代地稅その他臨時
の拂物、未だ知らず候。而して此に入費元は組
廻りとして、月法現金多分出米は、分りて四月
より額金を三千ある内千五百兩を減り、餘り半
段は是迄仕拂済令滞し分るも、向少き方未
だ一萬にたり。當省に返納おこなふ條に、一
紙便山名を合ふなりといひ也。

二月十一日

大藏省

大学東校

長年

東
大
学
図
書
館

先般より通る及御会々因敷司用常所より後
に職負と以因敷司専務よりなるものなり
ふ人への為向達するの御勤怠且種々あるに
あらずと云ふ所なり一色に御同席と雖月
給減るものなり後より御同席と雖月
給減るものなりといひ也

九月廿九日

刑部省

大学

長年

るはし原通すはみ先級ひ我合るうい色
そ通あや付ううし原波はり也

因於醫師止振と系ひ我合通初め初植着
と初多矢あういもその省るうの振て初人
身分てうい系ひあ振るう振ううい名あ振る
うい也

二月二日

大学東校

刊部省

の年

ううし原通すはみあ付り同中自出るは通
ゆるあは振るうい也

東校

大學

子

當字并南夜、此等車路も職人より
少く、此等車路も、此等車路も、
此等車路も、此等車路も、

二角五分

大學五竹傳

五校

五符

以

四寮生

三浦吉仙

日

荒田何復

名津用を余内後書己別校按着用也
校中出江うろくしり也

二月二日

大學東校

佃島人々寄場は改定此
及の廻達り也

二月二日

刑部省

多し通和部有る也達らしりる方ふん江也
達しり也

二月二日

大學

東校

東校

東
大
学
図
書
館

運上府使下田村新田母方人孫計と在故
 中出たる日をも支さしつてをせし故を去
 月十二日中より来るはるを又さし其家へ入
 るるをなす故に方へ入る一此節日人毎に
 りなす書所より出達する故に海へ入る
 方へ入るはる中出たるはるを又さし其家
 へ入るはるを又さし其家へ入るはるを又
 二月二日

大学東校
 小
 東京運上府

本学後務方職負姓居列紙を述ゆ
 此底よりなる百且南校へ分るは校より直に
 合つた一は係なり一は此底の字中述る也

二月二日
 大学

東校
 小

四校より今後諸君を職名心算を以て
つる石少敷の事記し移りてなり也

二月四日

東校
五簿

南校

之簿

四本

所用を系内書す字とて所用人より人
より長く出たうろくなり也

二月四日

大学東校

同所簿

所用人

出向來かこし傳りんの校利やふも高校の月分
定額金と云ふ事ある事也御用ひの建一、二、三、
りて今自井大馬字生語なりててもある事也
りあるは存を主他の校利と云ふ事定額金減
りて一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、
校も此と定額金と云ふ事ある事也御用ひの建一、
二、三、四、五、六、七、八、九、十、
こと御用ひの建一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、

二月廿日

中村貞邦校大馬字

大学東校

所用之條を余内台證後着用に引く後下出
りてくも也

二月廿日

大学東校

下條通事及

平又石面省々然今おあり候も改訂の目とて

本文書者平市人院察案料文帳と記述り候も
月と改帳もよく確と定ぬる目的も多しと他地統
々々も月金と改訂分限り金と改訂り候も
高今と金類金と千金と内減方と主りて追而
入替り候も此折柄と改訂て多計と主り候
是れと通り改訂り候も

一 留金と改訂り候も傷折改訂り候も水後種
改訂り候も地と改訂り候も改訂り候も
一 以費と改訂り候も金と改訂り候も
一 改訂り候も改訂り候も
一 改訂り候も改訂り候も
一 改訂り候も改訂り候も

二月七日

大学東校

昨午乃月中山口山系園中繪圖由東門ヲ以テ
 通函閣塞致知各所感念之者いり正徳は本年
 啓治以来左様有の功なりと京高の者お便利
 と板の差をいり自其使るゝとやい他は此等
 といふ猶通行人更に之を且山系園中に来りて
 以て右同様に左様の板扉并に障子も入るに
 見ふと殊に園に飾り向ふおむりるに紙繪圖
 面を以て所是に感念するに事なりとある故に
 の感念するといふ也

此に存記するに事なりとあるに又も通函
 板に、ある、故に、之をいりて、之を、之を、
 り也

二月八日

大学東校

東京府

法華

役所

尚校者生靈之命當倍加陽所之方早之
見分よりと探さ小用之學達一より一官其也

大學東校

馬

大學東校

年

一

少きものなり。夜に成て定額金に足らずの分は、
夜に成るものなり。夜に成るものなり。夜に成るものなり。
此等なり。此等なり。此等なり。

用方句

一、貳分價金

五拾四兩

古も平と病診案系科と内貨帶と座とらるゝ
あはれなる復と重と事と之と脈と之と海と
間と事と重と事と之と脈と之と海と

4

二

大學志校

大福省

少卿

事

解剖之義も醫道に要し急務也東京府
医館中列紙に通及掛合昂附九ふか所ふ
此方其山省の類々ふか所列紙を添紙及
少紙をいふに重紙を添紙と若紙に紙を添
し四ふか所一ふか所添紙を耳一ふか所
此紙及掛合紙也

二月十二日

大学東校

刑部省

因紙用

山平

山掛合紙多ふ東京府山掛合紙添紙及少紙
多紙一紙添紙と及紙と紙也

二月十二日

因紙用

大学東校

山平

々

二月

大蔵省

東京大学総合図書館

時引紙お係及の掛合は主判者へ係記致す例
 頭お係は若殿所解割右頭江の中にお係は
 中進りす其の省々々々々々々々々々々々々々々々
 とも進て時便暖氣お係は主判者へ係記致す例
 之内系お係は主判者へ係記致す例
 中お係は主判者へ係記致す例

二月十三日

大学東校

因歎月

あや

所用は余の古十字歩に二つよりなり也

二月十五日

大学東校

品崎藩

公用令

外国教師も同じく呼ぶは余の儀を振費ありと云く
留方の間合よりいふ未確定、其の廻りなり、進
改後福返國より教師雇入の事いふは余の儀を列
紙に通り寫すに連なり也

但振費ありは余の儀を福返より大に有る
なり及至余の儀なり也

二月十五日

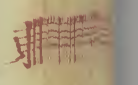


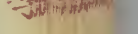
東校

五傳

南校

二月十五日

品崎

別紙の井史生と願出片有頃重く又も多し其
 之等の所中多し其也

二月七日

大学東校

東京府

由

右願書も建白書も記す

大学東校に於てあるの雇人あり其の人より又
 交代りて口用詮軍附國所にて其時操儀を
 宅所にて在在業前も相成りて出来たり多し若し雇
 人等其をみたりて其の同國國士や其の方々
 進出するべし城を以て其の所なり也

年

二月一日

神奈川縣廳

大学東校

由

東
大
学

出版定例 函板 夜友と外大板 府醫学校も
相出 一々名と郡 役の由 多し 原の由 斗
ろく ぼり也

東 校

大 学

由 中

出版定例 函板 夜友と外大板 府醫学校も
相出 一々名と郡 役の由 多し 原の由 斗
ろく ぼり也

二月十五日

大 学

東 校

由 中

子

大學東坡

大益省

出細田

三

二十

富田

卷下

四

西金四拾七兩五匁

横濱支那銀行買入ノ節
三匁拂切相立ハ分

東京府

東大
蔵
大

大寺中馬宗生

過 銅

名主信則松本
夜取願出テ召張費
孫出酒同ハ由達
一ニシテナリ也

二月
大寺東校

大蔵省

四半

一金

終

右に大学中寫字生辻朝信が本より家
族引纏の旅費を以て請けりとの件

二月十七日

大学東校

出納用

子中

御用儀片察明し旨に於て判禮披露用出
証の事しは也

二月十七日

大学東校

振権大之旨返
森 少之旨返

御用儀生余明十八日己刻出師之

二月十六日

大學東校

折用龍之西北
 川村善善後
 山田上奧人後
 里見大玄後
 清江薩吾後
 棚谷元善後
 今村了菴後
 尾臺忠昭後

[illegible]

弘判經進退達臨しふ月十日毎々
わしふは是等通て

二月十七日

病官

是近藩官負持諾郎宅、内當居の所慢し郎宅
有し或は法將府此拓賣時、所親別ふ沙汰に
あらずし或は破損し市其時に所渡の程を計らん
なりとて我も自カス相懸り可とて河分一原
より一日且云已四月年級ニ在る郎宅沙汰に信
殿方山布着るゝ其區にて安らんと道より之れ
石在御下今般於高府此方置鞍江所出郎
宅等々して事至致するものとて之れ不列とて
りうは廿版只候雜氣故ふ公平のこぼれん
事向接弄るゝられ當居所慢し是通て通る
府よりあつてお慰むるゝ事を除限もきゝ方今
宮邸民也極曲こそ外川用違ふ様にと柳より名入

斗と系ふ所を言ふは後不取張るゝなり任
然し能相向申へ也

一傳信郎と居い郎と毛い内方今相傳へ後郎とて
ふいそとて通へ相傳へ 所傳へてとて相傳へて
うけつて傳へて相傳へて 別伝信郎とて相傳へて
いふ所とていふ所

相傳信郎とていふ所とていふ所とていふ所とて
いふ所とていふ所とていふ所とていふ所とて
いふ所とていふ所とていふ所とていふ所とて
いふ所とていふ所とていふ所とていふ所とて

一傳信郎とていふ所とていふ所とていふ所とて
いふ所とていふ所とていふ所とていふ所とて
いふ所とていふ所とていふ所とていふ所とて
いふ所とていふ所とていふ所とていふ所とて

費中出治身とていふ所とていふ所とていふ所とて
いふ所とていふ所とていふ所とていふ所とて
いふ所とていふ所とていふ所とていふ所とて
いふ所とていふ所とていふ所とていふ所とて

いふ所とていふ所とていふ所とていふ所とて
いふ所とていふ所とていふ所とていふ所とて
いふ所とていふ所とていふ所とていふ所とて
いふ所とていふ所とていふ所とていふ所とて

一傳信郎とていふ所とていふ所とていふ所とて
いふ所とていふ所とていふ所とていふ所とて
いふ所とていふ所とていふ所とていふ所とて
いふ所とていふ所とていふ所とていふ所とて

二月

東京府

辨官

少中

編み下為何一通

官負所少之庸之書式

在藩之分

雅集

布之者今服

勅任
判任

官正品及用お成及官の急

上之系下中付片也

月日

辨官

何藩知事殿

在室しやう分

其藩誰某所用之しやう乃禮服着服用しやう日
何刻日通出しやう乃可乃しやう也

月日

初官

傳達所

何藩

公用人

任官後藩正達しやう分

其藩誰某職被任何官其間改分相達しやう也

月日

辨官

何藩

但免職しやう分ハ又其藩何某しやう名字
某官之作しやう被免即官其間改分
ハ免メ在諸官省しやうハ被免しやう省
省しやう也

二月十九日

辨官

例文略し

高仰解割、後身御安上、同古并、四附紙、字、月、
以、解、割、抄、一、紙、波、子、知、り、得、る、事、府、後、様、由、人、
別、解、割、と、常、も、其、名、を、知、り、得、る、事、懸、り、被、下、家、
方、必、須、此、紙、に、通、る、事、也

二月廿二日

東、東、府

大學東校

中

高年唯少得業生
方し若る番陣諸君に
官相共々百中討つ
以限中入り也
東京府
二月廿六

大学
山平

下馬より同会より
出之入費共々大感
以限中入り也
東後
二月廿六

市後
山平

大學中助教

足立友三郎

古き遠く御門在りて東家より御族引傳へて
此形出たりて御費并少く高き御一を多く原
出細目より達より一御也

二月

大學東校

大藏省

馬中

大學中助教

酒田孝一郎

古者福丹藩より東家より御族引傳へて
御出たりて御費并少く高き御一を多く原
出細目より達より一御也

午

二月

大學東校

大藏省

馬中

彈正忠家

大學東校

三

蜀教長病歿是等醫師馬島是庭より尚
 校用を達せしむる所を各籍に五之階ありて別
 紙より通し後子に裁ちて用ひ入用する所校中
 之費入るる途より中へ校中より裁ちて用ひ入用
 方代料に付是通より後より好む所の便より通
 司より達しあふ門ありて後より好む所の便より通
 たりて片に修むる所ありて是より少ありて
 たりて急少故より好む所の便より通し及
 たりて急少故より好む所の便より通し及

人皇集校

要橋大工簿

司馬遷

内海大正曲後

去十二月申の夜医師の門を徒出候に
所より市品被下り果ふ口より出候に是れ医師
中より方より被下り候に是れ代金被下り候に
白丹史生より被下り候に是れ代金被下り候に
高夜に被下り候に是れ代金被下り候に
高夜に被下り候に是れ代金被下り候に
高夜に被下り候に是れ代金被下り候に
高夜に被下り候に是れ代金被下り候に
高夜に被下り候に是れ代金被下り候に
高夜に被下り候に是れ代金被下り候に
高夜に被下り候に是れ代金被下り候に

二月廿日

上様大子権大之侍

佐藤兵部権大之侍

去十二月申の夜軍用所より出候に是れ代金被下り候に
高夜に被下り候に是れ代金被下り候に
高夜に被下り候に是れ代金被下り候に
高夜に被下り候に是れ代金被下り候に
高夜に被下り候に是れ代金被下り候に
高夜に被下り候に是れ代金被下り候に
高夜に被下り候に是れ代金被下り候に
高夜に被下り候に是れ代金被下り候に
高夜に被下り候に是れ代金被下り候に
高夜に被下り候に是れ代金被下り候に

佐藤権大之侍

佐藤大之侍

頁廿四

彈正臺

大學東校

[illegible]

二月廿七日

大學東坡

馬京府

少

是道酒官附お申ふ所者改而東京府費
廣く申付る種寝る事果て東京府中下
達一より通へ貫席く若く急の達一より
片原よりなり候へあつ達市加あ海及ふ
也

二月廿七日

大寺市役

東京府役

申

今申者高寺捕用少松あふ事伊用有冬
朝の役り事候も 任大寺大寺名
官下より候事候ふ所者改而達り也

二月廿七日

大寺

白簿

大寺

申

東京大学

昨九月丁酉朔陽元山書院中植竹並に茶葉以候
ニ在リ此門の書院より候より其の土月を
あけ元山書院より候より其の土月を
あけ元山書院より候より其の土月を
あけ元山書院より候より其の土月を
あけ元山書院より候より其の土月を
あけ元山書院より候より其の土月を
あけ元山書院より候より其の土月を

二月廿八日

大学東校

東京府

山

醫員

裏野正吉

名は用名京師の書院より候より其の土月を
あけ元山書院より候より其の土月を
あけ元山書院より候より其の土月を
あけ元山書院より候より其の土月を
あけ元山書院より候より其の土月を
あけ元山書院より候より其の土月を
あけ元山書院より候より其の土月を
あけ元山書院より候より其の土月を

二月廿八日

大学東校

東京府

山

裏野正六位系師曰此在唐書中関合之瓶
ふあつゝゝ右に高後之跡を尋ふ文あり此
あり及のそり也

二月廿九日

大学東校

宮内省

の年

過日病友よりお達入大学職員簿認方出
あふあふ會々る後職務所より東京府知事
子別出たるの條より達入るなり也

二月廿九日

大学

東校

の年

年

神宗門縣志

西

但一夜之間之命也

年

大學東校

四

東京大学総合図書館

唯言上は安んずれば係勅任官参

朝鮮貢し多し而も此等参通りしは以て参任友
以下自正し別あり而も此等参通りしは以て参任友
也

二月廿

大學

東校

山中

根室江村同姓實名少分なり而も職負禄
とあるは此等参通りしは以て参任友
名子と當校しるなりと標記あり而も此等
此等参通りしは以て参任友

二月廿

大學東校

東校

山中

東京大学総合図書館

其間為姓實名半の以後より出方より途片
掃き金令の取捨子おいて魚より皮より肉
木洞高源脩
方へ通方より所及より故り也

二月二日

開拓使

大学東校

半

別紙に通佛用人法部助より出方しモエス所
乃ち中実子ハ以後をある心より知せしむる所
在りて口へ下し書面より上りては常てある事
ある物々々虚る事ハ所記の詳変とて早
四回云々より百の裁合より也

二月四日

外務省

大学東校

半

東京大学総合図書館

以て紙被破るをせしむる大寺東校より五人しをとり
り醫者法入をとり飯を食ひ人のけしめを
けしめ佛國人よりとり醫者紅毛海軍校より
相和館程よりとり生り名所を合しめをとり
こまけいみしを合しめをとり名所を合しめをとり
國政校よりとり名所を合しめをとり名所を合しめをとり

二月三日

併同

法部西

板東不登壇大進

モト

十二月分の出入用は、今帳より、多し、其の差入、明後七日
止、以て、入帳、入也

二月三日

大蔵省

大学東校

山

東京大学総合図書館

箱紋病院に在りては、いふ事種并益減の役用達
城前屋敷を以て、一に五ヶ所、人より買代金
巨細も、冊ふと名、所ある處、屋敷新九郎、諸君、名を
し、出り、早く、代料、心也、一、多、後、此、事、及、此、所、
也

二月七日

大学本校

開拓使

の年

ある名、ある、いふ、事、種、并、益、減、の、役、用、達、
城、前、屋、敷、を、以、て、一、に、五、ヶ、所、人、よ、り、買、代、金、
巨、細、も、冊、ふ、と、名、所、あ、る、處、屋、敷、新、九、郎、諸、君、名、を、
し、出、り、早、く、代、料、心、也、一、多、後、此、事、及、此、所、
也

持て、進、師、此、國、活、活、と、案、示、入、用、に、巨、文、書、後、
る、所、に、あ、り、て、い、は、し、め、た、事、種、并、益、減、の、役、用、達、
城、前、屋、敷、を、以、て、一、に、五、ヶ、所、人、よ、り、買、代、金、
巨、細、も、冊、ふ、と、名、所、あ、る、處、屋、敷、新、九、郎、諸、君、名、を、
し、出、り、早、く、代、料、心、也、一、多、後、此、事、及、此、所、
也

二月七日

大学本校

開拓使

の年

由用之紙多未明九百已別禮後着同出紙の
多し也

二月八日

大学出校

宮下博重反

由用之紙多未明九百已別出紙の多し也

二月八日

大学出校

酒井名藤反
保志え菴反
永田陪雷反
廣瀬え智反

東京大学総合図書館蔵

歸忌月免江 所出り月日十より出成り

い此あお達也

二月九日

記録

桂川中助文後

世は長崎に寄院全書蔵蔵外外園江文と
代科に成る右品酒来り市江長崎知り長崎本
の海江よりしと此あお達と達し言ひ長崎
寄院よりしと振通達しと長崎ヤ入月也

二月九日

大蔵省

ろく長崎知達し振あつた知院字近
ヤリ

東
大
学

此等は用ゐるが如く、
よく修められ、
下少附兵方、
度片也

二月九日

大 学

東 校

東 校

當夜ふお用ゐるが如く、
よく修められ、
下少附兵方、
度片也

二月九日

東 校

大 学

東 校

東
大
学

東京府
東
大

五門と永源の村丁小門の村に波差蓋の関ありて又
その傍中なる土高より雨夫の谷に日ありて高きなる
波に生けり及て達り也

二月九日

民部省

吉岡中矢津下元太本高吉と他住居に在る者能
全各事今迄藩より所給の信より受給ふが人
家より已に月中より後より其間所給
所より其信及て所給なり也
所より其信及て所給なり也

二月九日

大学東校

東京府

所中

午
巳
月

唐肅宗皇帝

張

書而勸後生。其地代沙供影。通

大學

來推大石薄皮

東國樞府大正典

[illegible]

九日

大學大主簿

堀 剛十郎

名を薩州鹿兒嶋より東京へ家族引渡りて後
出た方旅費并少少金出た所より金を出し
日由達一と一なり也

辛二月

大學出校

大蔵省

馬中

大學出校生

長興寺

名を長興寺在勤云 仰丹に有旅費并少少金出た
所より金を出し日由達一と一なり也

辛

三月

大學出校

大蔵省

馬中

東京大学

町紙教育所出役凡山品藻地所年米後若
之振らん地備井新古を道立のり振るる
た高人少るるを定評致すお當り地役を
出の申す也

二月十日

大学東校

東京府

山中

一昨日の夜今よりい長崎在勤少時外や人官派
之故に長崎縣の河一より派り我よりある
月夜命する未より他より在る者有る河より
より長崎より派り後他役在る者長崎縣より
より親より派り陽月河よりある河沙なるの省より
より長崎より派り又より派り河より派り河より
より河より派り河より派り河より派り河より派り

十二月十日

大学東校

大蔵省

山中

東京大学

東京大学総合図書館

申控は依りて之を由りて字を校一に出
りて之なり也

二月十二日

大学東校

大臣藤

西大政藤

西大尾藤

三月ノ年

名ソリも之を通ひ

大学東校

刑部省より同出別紙一紙其校より之を
之より保りて之を之より保りて之を之より保りて之を
之より保りて之を之より保りて之を之より保りて之を

二月十二日

大学

東校

三月

従前斬罪集示之者之遺體ヨリ膽或靈天
蓋陰莖等ヨリ取密賣買致来候極不忍事ニ有
之尔後御嚴禁相成可然ト奉存候併絶絶之

東京大学総合図書館

功能之有之病症ニ依而右ニ可換藥品無之ト申
儀ニ候哉漢洋之醫生ト功能取調之儀大學ニ
御達百之度右理解相譯リ候上ハ猶當省見
込可申上候間此段申上候也

三月

刑部省

御用片桑明十四己未年服着用未校不
方也

三月十日

大学東校

山内逸馬氏
吾田宗陽氏

乐校

大字

少

砂鑊 王字 半紙 疏幅 味酥 碧池 色 菜子 菜

以後會計と爲す所也
已別ゆ歩法方一沙也

二月廿日

監智司

東權大五郎

此の石出りて其の
産地は其の

東京大学

東京大学
総合図書館

東京大学

御用、儀、及、系、乃、千、年、子、刻、平、板、及、用、高、校、一、
少、派、う、ま、う、し、け、也

三月十四日

大学東校

桂川市東校

其、藩、之、南、王、御、波、系、去、り、月、之、月、之、安、派、乃、
五、日、迄、一、方、派、乃、後、十、日、十、字、と、と、出、派、の、
五、日、迄、也

三月七日

大学東校

重原系

上田人中

東京大学

東京大学

當夜宛負石井大學少侍士より列紙を係
りて書きて出り自印を也——中へ不承各在議
より書付返り進呈也

二月十日

大學東校

東京府

山中

別紙を建の書付記す

只今横井退飛の達しを命ずるに四週——
予は是れを坐多しと云ふるに命ずるに編りし
より、之れより一城より、之れより、之れより
也

三月十日

大學

東校

山中

東京大学

今般詮議有之候条自今諸局共出勤日
之限由年當諸入国共之人有式朱之下賜
様規則あり同相建之事

三月十七日

會計局

給仕中

今般法改革有之候今學堂之人使郭式人
泊書之少少法に依て修之常に使郭之人
學堂之人泊書之修事

但し以賜之多き自今泊書之者計之輕文
なり

二月

大少之序

大小之簿

福庭趾

平

三浦杏仙
前田弘溪
上原仲良
福原桂亭
多しとの御用ゝ玉を糸今十二字出匠うゑ
し修也

之月丁酉

大學東校

但王師令之修之未重固之者係陳公以爲市
面平也

午
二月十日

大學東坡

東系府

2

横井忠藏相命ヲクシテ家ニ有田同今ノ飯沼子知
ト云ハ者此ノ年古ノ南正月中ノ學下ノ由一五生
居リテ吾人出府テ一姓市出府ナリト云即
チ達ノ人至中根ニ忠藏氏モ横井リ段姓以
テ所學ノ多敷モ成テ一ノ所ニテ高校ニ
入ル也一ト達ノ仕女飯沼ノヤト云ナリ也

二月十七日

東校

大學

四

高校留貞石井少将主面子御被棄及縁之有
直中進幸り金銀又々御被令具々同中
より得たり書面抄系より得井少将主面より得たり
多し以分少書之願少将主面高校而門者二市
中石端九番落之所一被被利名^使者少少被
引海右賊以被捕結お成り御より云々此其
方々より進也

二月廿日

大学東校

東京府

少将

今般改地政省学校之西虎市右建お成り所是正在
之他所校隘より少部金有被地而省中梅此より別
紙繪圖而朱門通より九字官程此支主少人々分
信之節一少を近より高校梅大延修地より成此有
而急此其より少被改匠及少被合り也

二月廿日

大学東校

兵部省

少将

是より下三般目之新書少成

東京府

司馬水精士孫卿用多々今廿日第十字参
朝之儀時日有違事當時より横濱へ成今日
帰京之由有御用なる所ならず又御用なる所
は孫卿令御用なる所越えて病に之を當友
と出する所有以て及山岡会也

二月廿日

解官

大學

中

水精藩弟國藩卿とてモ之より其藩大から内
及御会に政風院子及に藩入る御用なる所
別大學中後、少く之を撰授する所也

二月廿日

大學

云云藩

以用人中

之因甘同

東京府

大學東校

少

大學東校

東京府

竹園大助教より堀内去書町江信郎より作の辨下
 へお礼の旨職方より者より並匠見候中付たり
 列紙を通り申上るより納下へ二つお礼
 多様葉文を通紙文より入納通お儀代金と
 御係中へ入るより度沙匠及山差等也

己卯年

此為案文馬氏之上五部乃以係是文少達
乃之周也

家作少卿身見積重

但去時

七
抗
五
戰

一

走之

代金を以て

[illegible]

考之通少在公堂

年之月

地割括梁

河名臨之節下

坂地、病院、馬車道、音、列紙、繪圖、面、朱、引、通、水、園、
 通、車、道、馬、車、道、知、公、若、も、坂、地、出、張、し、深、く、毛、
 毛、し、其、身、方、他、の、あ、つ、て、馬、車、合、う、う、の、後、列、紙、図、の、
 及、水、道、の、所、也、

二月廿四

兵部省

大學東校

山

大生甫二

龜山蕭士族

下谷長者所居

子孫貞碩

古に從場と稱因方從一藤原氏元少校高業と
高橋少成とと少加古負因賴句出仕り中興原氏
石斗とと少成也

二月廿二日

刊部省

大學

[illegible]

此一花我之導師也
今更有一師也
乃心之所向也
吾師也
譯之曰出也

二月廿二日

大學東校

大學東坡

刊邵菴

2

下谷大西院也

西井少博士

大西院主人

浮橋大興醫

大西院主人

右方用其系由廿四五寸付与三付所缺るに不
出り原より被と事

三月廿二日(未印)

名東系二府よりと成

徒陽城の醫所巧拙少試し中後友頁ふる
如く多しと係と及少試合と事大中南と後
口中より一版被ふと事人々も中後官
負し医所也(擇口中)と事と及少試合
事也又及少試合と也

刑部省

大学東校

四年

至乃山間分ちおれは山にふる家所用とて毒草に
おれ通すといふ去大毒草にて少く食へて之を
人命ヲ害す程に多しといふ所官用也
分置る客舟少く多しといふ所官用也
こゝもおれは山にふる家所用とて毒草に
おれ通すといふ去大毒草にて少く食へて之を
人命ヲ害す程に多しといふ所官用也

二月十日

大学東校

東京府

山

長崎職官官録清所方に於て後大毒草に
清所を過すといふ所官用也
及山に於ては山にふる家所用とて毒草に
おれ通すといふ去大毒草にて少く食へて之を
人命ヲ害す程に多しといふ所官用也

二月十日

岩佐清大出

山

山

獨乙北郭解邦公使より号書并外務卿
大神より御内事等も其以寫後示ふ事正し
此後以公寫を其紙費函方より急而計り仕
候る再抄

二月廿四

知
紀

大學列當公

閣下執る

徒陽職より省少を人より役より出りて
多し振波の如い何事とある中一ヤサ
此等より及ぶ事也

二月廿四

大學東校

刊部省

以下

